



欲
亡
望
を
知
る。

彼
は

そ
の
て

R18
Adult
Only

つれもなく あるらむ人を 片思に
我は思へば 苦しくもあるか

大伴宿禰家持



もぞ

ん…



鶏が鳴いた
夜が明ける



…行くのかい？

ああ



与えられるのは
夜明けまでの
わずかな逢瀬

平安の習慣だ
仕方がない

よ
た
ん

ほんの酔狂で
始まった関係

それ以上を
強請るのは
ひどい愚作と
いうものだ

失うくらいならと
甘んじるのは
決して本意では
ないけれど

かせん!

かせんは
いますか?

た
た
た

今剣
どうした
んだい?

みかづきから
あずかって
きましたよ!





後朝の歌か

梅の枝に
添えるとは
雅だね

さすがは
三日月殿だ



あと
みかづきから
でんごんで

わか
かのほんを
かしてほし
い
そうです!



：かせんは
あいされて
ますね



和歌の？

では後ほど
三日月殿へ
届けよう

おすすめの
和歌集が
あるんだ





受け取れ



ああ
すまん

今剣から
聞いたよ

これで
よかったかな



歌仙



金平糖
じゃないか

僕にかい？

万屋で
見つけてな





歌仙さん
明日からの
編成表だよ！



へーへー
そういう
ことかい



…ふたりとも
何を食べて
いるんだい？



おや
届けに来て
くれたのかい

わざわざ
すまないね



三日月さんに
かわいい飴細工を
貰ったんだ！

僕は美味しい
落雁を
頂きました





大事なものじゃ
なかったのかよ

いいんだ

すまないが
ひとりにして
くれないか



二代目？



もういいんだ



ほんの
つまらない
勘違いを
しただけだ



和泉守か
珍しいな

話がある
二代目のことだ



ちょっといいか



けど言わせて
もらうぜ



アンタが
天下五剣なのは
よくわかってる

…歌仙が
どうした？

遠い平安の世の
生まれだ
ってことも



気まぐれで
二代目に
近づいてんなら
やめてくれ

兄弟…とは
ちいと違うが
オレの身内だ

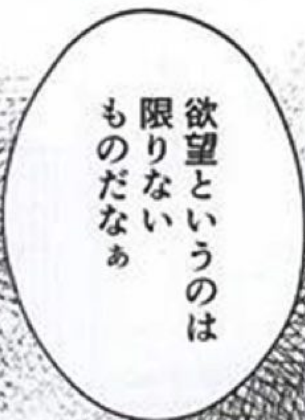
アンタが二代目
泣かすのは
見逃せねえ





それで満足する
はずだったんだが

なあ和泉守



欲望というものは
限らない
ものだなあ



そうか

気に入らな
かったか…



…どういう
意味だよ

まあ
じじいの
独り言だな

忘れろ



いつもなら
この時間には
来ているのに

三日月殿は
出陣も遠征も
予定には
なかったはず



やはり
一粒くらい
食べておけば
よかった

そうすれば
ひとつ思い出が
増やせたのに



僕に興味が
なくなつたと
いうことだろうか





三日月殿!?

眠れそうに
ないな

厨で
水でも…

か、歌仙

何をして
いるんだい

いつから
ここに?

お前の元へ
行くつもり
だったんだが

…どうした
ものかと

…そういう
ことか



…話が
見えんぞ？



飽きたのなら
そう言えばいい

今ならまだ
諦めもつく



僕がそんなに
聞き分けがないと
思ったかい？

歌仙…？



何もかも
ほんの戯れだった
んだらう？



触らないでくれ!

歌仙!



瑣末なことに
振り回されるのは
もうたくさんだ!


夜毎逢瀬を
待ち望んで
しまうのも

夜明け前に帰る
後姿を見送る
やるせなさも!



あの菓子だって
短刀たちにも
与えていた
と知らずに


僕のためだけに
貴方がくれたと
無様にぬか喜びして



恋がこんなには
苦しいものとは
思わなかった



歌仙、お前…



もしかして
俺に惚れて
いるのか？







お前のために
何か買って
やりたかったのだ

だが俺は買い物など
したことがないし

歌仙が喜ぶ物も
わからないのでな



それで
こんなには？

この店にある
菓子すべて、と
頼んだら
こうなった

天下五剣

はじめての
お買い物
☆

万屋



今剣に相談して
ひとつ選んだは
いいが随分と
余ってなあ

残りを
短刀たちに
いくつか
与えたのだ

まだまだ
余っている
みたいだね



…買い物も満足に
出来んとは
思われたくない



どうして
僕に黙って
いたんだい



俺も男だ

惚れた相手の
前では格好を
つけないか
ではないか



明け方に帰るのは
歌仙が雅や風流や
平安の作法を
好むからだ

俺が毎朝
どれほど名残
惜しかったか
知らんだらう？



やれやれ……



…え!?

ほ、惚…





僕が悩んで
いたのは
なんだったんだ!

ああもう…



三日月殿は僕に
惚れているなど
一度も言わなかつた
じゃないか!

それは歌仙も
同じだろう!



人の
真似事を好む
お前のことだ

俺が夜毎通う
故になんとなく
受け入れて
いるものかと…

冗談じゃない!!

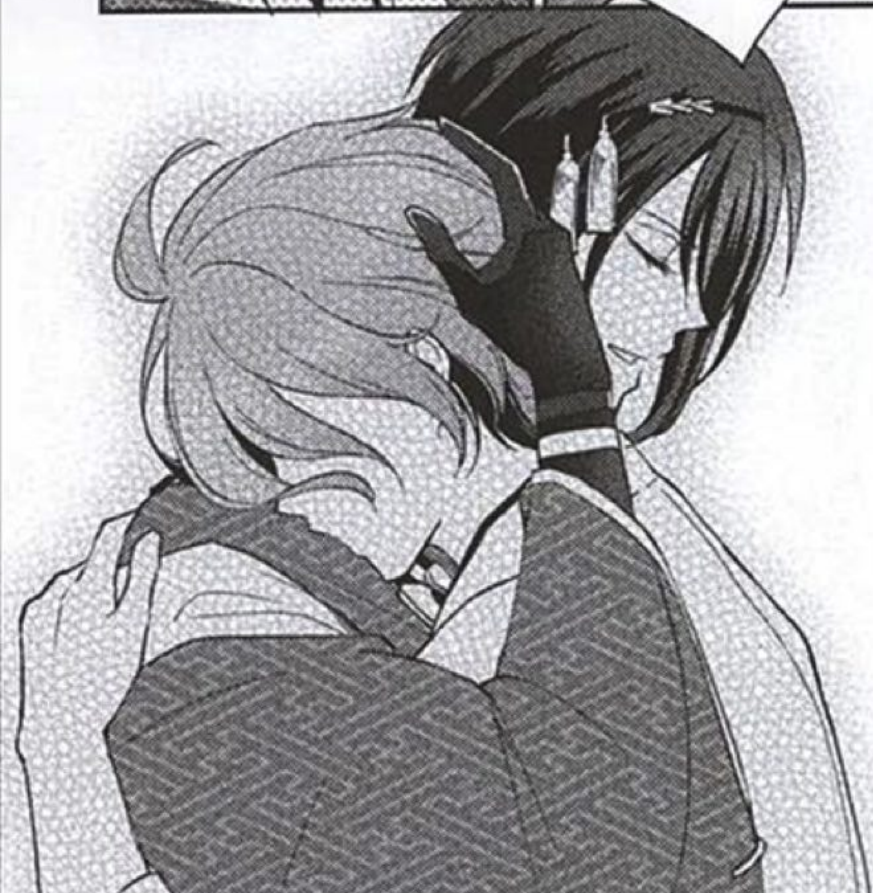


…ああ
そうだ

そうだったな
すまん



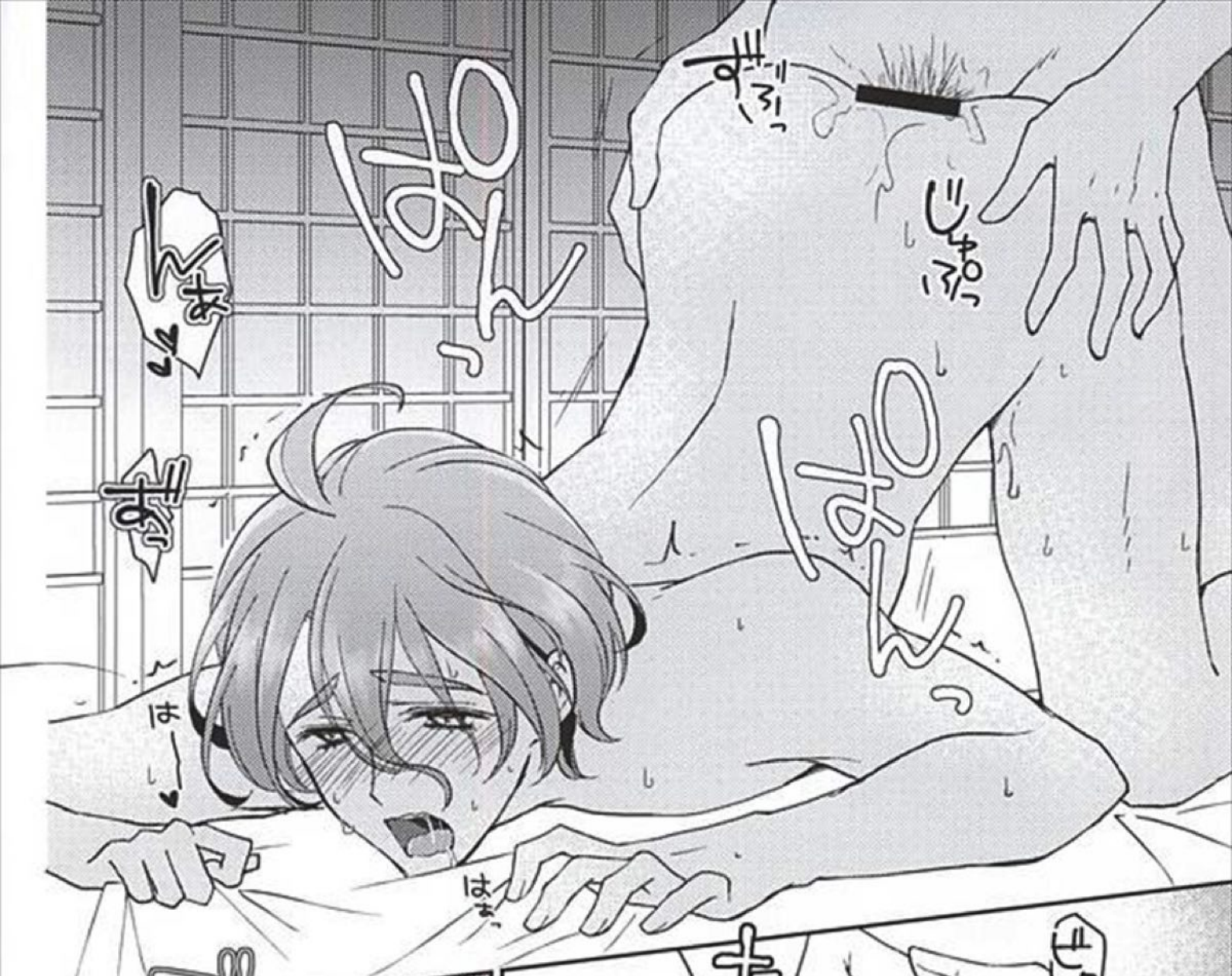
この僕が
なんとなくて
抱かれたり
するものか！



お前は誇り高い
之定が一振
であったな







いつもより
悦んでいるな？
粗相でもした
かのようなだ



こちらも
逃すまいと
絡み付いて
くるぞ……ッ



あ、そこは、

あ、そこは、

歌仙はここが弱かったな?

奥ッ、だめ...ッ

待って...ッ

あ、そこは、

そんな顔を見せられて待てるわけがないだろう?

だめ...ッ

あ、そこは、

あ、そこは、

あ、そこは、

あ、そこは、

あ、そこは、

あ、そこは、



鶏が鳴いてる

…夜明けか



覚悟してくれ



これからは
夜が明けても
帰さないよ？



これは怖い
俺から全部
しぼり取る
つもりか



わっ!
ころん



ああいいね
僕を満たして
もらおう
じゃないか



試してみるか？

欲望というのは
限りないぞ

